

藤岡義英議員の9月県議会での質問と答弁の要旨を紹介します。一般質問、答弁の全文はホームページの**議会の様子**から、質問の動画は右のQRコードよりご覧いただけます。



＊ ＊ 農業支援策について ＊ ＊

藤岡 先月まで米不足が深刻な状況だった。政府に対し備蓄米の活用も含め、生産者団体や流通・小売業界と協力して緊急対策を求めるべきだったと考えるが、県として何らかの対応をとったのか。

農政部長 主要な卸売業者等へ現状や今後の見通しの聞き取りを行い、早期に店頭で米が並ぶよう主食用米の円滑な供給に向け最大限の取組を要請した。備蓄米は年間を通じて米の供給の不足が見込まれる場合に放出されるので、今回は該当しなかった。民間流通に影響を及ぼすため、国における今回の検証を踏まえた議論が必要と考えている。

藤岡 新米が収穫されれば市場は落ち着くと済ませてはいけない。政府は食料の自給率向上と安定供給に責任を持つべき。県も独自の未然防止策の検討を。

※スマート農業・収入保険と農業共済制度・新規就農者の機械更新補助等についても質しました。

＊ ＊ 林業政策について ＊ ＊

藤岡 佐久管内の木材生産量は10圏域内で最も多く先進的とのことで、事業者に話を聞いた。信州カラマツは日本一強度のある木材とされるが、ほとんどが県外に流出している。その現状をどのように打開し、信州カラマツの地産地消を図るのか。

林務部長 信州カラマツは全国的に高い評価を受けており、県内で加工していくのが望ましい。県産材の製材加工施設への支援に加え、県有施設における県産材の率先利用等により、県内外での長野県産カラマツのさらなる利用促進に努めていく。

＊ ＊ 信州 F・POWER プロジェクトについて ＊ ＊

藤岡 この事業はどうなるのかと、林業関係者、林業研究者、木質バイオマス発電事業関係者などからご意見をいただき、どの方からも厳しいのではと指摘された。県内の発電施設が必要とするチップ材は年間25万m³であるが、現状では6万m³不足している。必要とされる膨大な量のチップ材の安定供給は可能なのか。このままではソヤノウッドパワーの事業の継続は難しいと感じるが、所見を伺う。

知事 これまでも原木の安定供給等様々な取組を行ってきたが、林地残材のさらなる活用を図る等、県内全体の燃料材の安定的な確保に向けた取組を進めていく。着実に成果が上がるような事業になるよう取組む。

藤岡 プロジェクトのつまづきの原因は、規模が大きすぎたと言わざるを得ない。知事は、責任があることを強く受け止めるべき。小規模分散型で発電よりも熱利用を優先的に進めることを求める。

〇質問を終えて〇

農林業現場の声をできる限り届けたいとの思いでした。F・POWERプロジェクトについては、発電規模、チップ材安定供給の角度から県の責任を問いました。

